

共同利用実施報告書(研究実績報告書)  
(災害軽減研究)

1. 課題番号            20 14 -Y- 史料3 (※) )

2. 研究課題名 (和文、英文の両方をご記入ください)

和文: 東アジア地震史料の研究——そのデータベース化と災異思想の研究

英文: Study on the documents of Earthquake in East Asia

3. 研究代表者所属・氏名 東京学芸大学・教育学部・准教授・小嶋茂稔

(地震研究所担当教員名) \_\_\_\_\_

4. 参加者の詳細 (研究代表者を含む。必要に応じ行を追加すること)

氏名	所属・職名	参加内容
小嶋茂稔	東京学芸大学・教育学部・准教授	代表、中国史地震史料の研究
保立道久	東京大学・史料編纂所・名誉教授	事務局、日本史地震史料の研究
井ノ口哲也	東京学芸大学・教育学部・准教授	中国史地震史料の研究
伊東貴之	国際日本文化研究センター・教授	中国史地震史料の研究
小島毅	東京大学・人文科学研究科・教授	中国史地震史料の研究
六反田豊	東京大学・人文科学研究科・准教授	韓国史地震史料の研究
木村茂光	帝京大学・文学部・教授	日本史地震史料の研究
今津勝紀	岡山大学・文学部・教授	日本史地震史料の研究
藤田明良	天理大学・国際学部・教授	東アジア地震史料の研究

5. 参加者が分担した役割 (200-400 字程度で記入してください)

代表小嶋茂稔および事務局保立道久は、中国史の地震史料のデータベース化について担当し、宇津徳治氏が作成した「世界の被害地震の表(古代から 2010 年まで)」(以下、「表」)の中の中国史のデータを抽出し、個々のデータのもととなる史料のテキストデータと書誌データを附加する作業を行った(なお、メンバー全員で慶松光雄氏の清代に到る地震史料について膨大な史料カードを東大地震研究所で実地地見学したが、それにもとづく史料の吟味・点検作業は、今回は行えなかった)。

1月に行った研究会で報告を行ったのは藤田明良(「東アジア漢文史料の噴火叙述について—濟州島 11 世紀噴火を手がかりに」)、保立道久(「倭国の地震火山神話について」)、小島毅「中国の史書に記録された地震記事について」およびメンバー外であるが協力を御願いした宮瀧交二氏(「日本における災害情報継承方法の変遷について」)であった。2015 年 8 月に中国済南で行われる第 22 回国際歴

史学会での Joint session 7\_Historiography and Comparative Perspectives on Natural Disasters の責任者は木村茂光、報告者は伊東貴之である。

6. 研究実績（論文タイトル、雑誌・学会・セミナー等の名称、謝辞への記載の有無）

伊東貴之「前近代東アジアにおける天変地異（特に地殻災害）について Cataclysmic Disasters in Pre-modern East Asia」(第22回 国際歴史学会議 済南(中国)大会、2015年8月26日、Joint session 7 Historiography and Comparative Perspectives on Natural Disasters)。謝辞なし。

保立道久「地震の神話と地震の記憶」（東京大学大学院人文社会系研究科『死生学・応用倫理研究』第20号、pp.19-30、2015年3月）。謝辞なし。

保立道久「南海トラフ大地震と『平家物語』」（史学会2014年11月年次大会公開シンポジウム「近代における戦争と災害・環境」における報告。於東京大学法文2号館。報告要旨、『史学雑誌』124-1。2015年1月）。謝辞なし。

木村茂光「戦後中世史研究との向き合い方」（『宮城歴史科学研究』75号、pp.1-15.2015年3月）。謝辞なし。

藤田明良「歴史学における“海域史、研究と濟州島」（『韓国朝鮮の文化と社会』13,pp.29-60 2014年10月15日）。謝辞なし。